

会派調査(研修)報告書

NO.

平成30年 8月 3日

胎内市議会議長

森田 幸衛 様

(報告者) 会派名 緑 風 会

代表者名 渡辺 宏行

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成 30 年 7 月 3 日	調査・研修 場 所	秋田県にかほ市 (7月3日) 山形県大石田町 (7月4日) 岩手県一関市 (7月5日)
	至 平成 30 年 7 月 5 日		
	2 泊 3 日 (3 日間)		

調査・研修 事 項	秋田県にかほ市 道の駅象潟 観光拠点センター「にかほっと」 ・地域活性化の取組について
	山形県大石田町 大石田町役場 ・コミュニティースクールについて
	岩手県一関市 一関市役所 ・移住定住について

調査・研修 出席者(参加者)	会長 渡辺 宏行
	幹事長 薄田 智
	坂上 清一
	会計 八幡 元弘

<調査の結果、または概要>

秋田県にかほ市（人口24,857人、議員数18人）

にかほ市は、秋田県南西部に位置し、南に鳥海山、西に日本海を臨み、鳥海山の山裾が海岸近くまで延びている。秋田県のなかでは、降雪量が少ない地域である。夏には岩ガキやウニ、冬には砂浜にブリコ（はたはたの卵）のじゅうたんが見られる。

山形県大石田町（人口7,212人、議員数10人）

大石田町は、山形県のほぼ中央、尾花沢盆地の西部に位置し、町の中央には日本三大急流の最上川が流れている。古くから船場町として発展し、徳川幕府にとって、尾花沢銀山が大きな財源であったので、重要視され天領として直轄地であった。松尾芭蕉の「おくのほそ道」ともゆかりがある町である。

岩手県一関市（118,270人、議員数30人）

一関市は、岩手県の南端に位置し、宮城県と秋田県と接しており、宮城県北部と結びつきが強く、北上川を介しての交流も古くから行われている。溪谷美を誇る巖美溪、石灰岩地帯を深く刻み込んだ猊鼻溪があり、多くの観光客が訪れる名所となっている。

<調査の所見、感想>

にかほ市（地域活性化の取り組みについて）

にかほ市の道の駅「象潟 愛称：ねむの丘」と隣接されている観光拠点センター「にかほっと」を視察した。秋田県と山形県の県境にあり、両県をつなぐ幹線道路である国道7号線が通っているため、自動車の交通量が多い。この立地環境を活かし、隣接の由利本荘市、遊佐町、酒田市と連携し地域活性化に取り組んでいた。道の駅には、日本海を見渡せる展望温泉もあり、観光拠点として機能していると感じた。近隣自治体との連携も図られており、近隣自治体を含めた取り組みの必要性、重要性を認識した。

大石田町（コミュニティースクールについて）

胎内市でも取り組み始めているコミュニティースクールについて、先進地である大石田町を視察した。大石田町では、町内に高校がないので15歳で町を出ていくことを考慮し、15歳を目標・目途に教育し、毎年テーマを決めて活動している。自主的に考え、行動するようにし、教育長から指示はしないとのことであった。人は褒められると行動し、育つ。そのため、子どもが見えるところで行動して、褒めてもらえるように取り組んでいる。最終的には、大人になった時に「自分の力で食べていける人を育てる」ことを目指していた。明確な目標を持ち、地域全体でコミュニティースクールに取り組むことの大切さを感じた。

一関市（移住定住について）

一関市での移住定住促進の事業は、「移住定住促進事業」「移住者住宅取得補助金」「空き家バンク登録住宅改修補助金」「いちのせきファンクラブ事業」の4事業を実施している。この中で、印象的な事業が「いちのせきファンクラブ事業」であった。年会費1万円で、1万4千円分の特典を受けられるものである。特典としては、市内宿泊施設の宿泊券や名物の餅料理の食事券、特産物を選択できるなど一関市のPRに役立つ内容であった。一関市を訪れる人には魅力的な内容であると感じた。胎内市とも類似している点もあり、大変参考になった。

以上